

参考資料

～ 湯川秀樹博士と西宮 ～

湯川秀樹博士が、日本人として初めてノーベル賞を受賞された「中間子論」を提唱されたのは、昭和の初期に西宮市の苦楽園にお住まいのときであった。それから50年を経た1985年（昭和60年）に、博士の門下生たちが中心となって、「中間子論誕生記念碑」を西宮の苦楽園小学校校庭に建立された。その碑文には、博士の著書「旅人」から「未知の世界を探究する人々は、地図を持たない旅人である」という言葉が刻まれている。

西宮市では、これを契機に、中間子論が本市で誕生したことを、市民をはじめ内外に広く知っていただくとともに、文教都市西宮の誇りとしたいと考え、1986年（昭和61年）から理論物理学研究者による「西宮湯川記念事業運営委員会」を組織し、「西宮湯川記念賞」をはじめとする「西宮湯川記念事業」を実施している。

この事業を通じて、湯川博士の「真理を探究する心」と「平和への願い」が、市民生活や教育実践の中に一層強く継承されることを念願している。

西宮湯川記念事業：

次代の理論物理学を担う若手研究者（40歳未満）の研究奨励を目的に、顕著な業績を修められた方に贈呈する「西宮湯川記念賞」の他、こどもから大人に至る市民の方々に基礎科学に対する正しい認識や科学する心を育てていただくための「西宮湯川記念科学セミナー」「西宮湯川記念こども科学教室」「西宮湯川記念こども課外教室 ～未来の科学者たちへ～」などで構成。

～ 湯川博士 略年譜 ～

明治40年(1907)	父琢治、母小雪の三男として東京麻布に生まれる（1月23日）
昭和4年(1929)22歳	京都帝国大学理学部卒業
昭和9年(1934)27歳	西宮市苦楽園の新居に居住 中間子の存在を予言。日本数学物理学会で講演、論文「素粒子の相互作用についてⅠ」(中間子論第Ⅰ論文)を投稿
昭和10年(1935)28歳	同論文を日本数学物理学会欧文誌に掲載
昭和14年(1939)32歳	京都帝国大学教授となる
昭和15年(1940)33歳	西宮市甲子園口に転居
昭和18年(1943)36歳	京都に転居
昭和24年(1949)42歳	核力に関する中間子理論によりノーベル物理学賞を受賞する
昭和30年(1955)48歳	ラッセル・アインシュタイン宣言の共同署名者となる。下中弥三郎氏・茅誠司氏らと世界平和アピール七人委員会を結成
昭和56年(1981)74歳	京都下鴨の自宅で永眠（9月8日）